

第二章

器具編



器具類は全部で63点を数え、地上測量用の器具、天体観測用の器具、作図用の道具などに大別される。地上測量用の器具は、弯窠羅鍼（杖先方位盤）、半円方位盤など目標物の方位角をはかる方位磁石、坂道の傾斜角をはかる象限儀（小）、距離をはかる量程車などである。天体観測用の器具は、緯度測定に使用する象限儀（中）、経度測定に使用する垂揺球儀、観星鏡などがある。そして、作図用の道具は線描するための烏口、地図記号の印などである。

これら測量器具は忠敬が実際に使用したものであるが、忠敬没後、孫の忠誨も佐原の自宅に運び、天体観測を行っていたことから、忠誨が使用した測量器具でもある。江戸時代後期における由緒の明らかな測量器具の最もまとまった例として、国内でも有数のコレクションであり、その価値は高い。